

平成26年度事業報告
(平成26年4月～平成27年3月)

I 研究事業

A. 研究事業

a-1. 企画研究

以下3件の企画研究の実施を決定し、研究費を支給した。

テーマ	担当	研究費支給額
郭沫若研究 共同研究者：林観潮氏・唐明中氏・郭平英氏	齊藤 孝治	485,000 円
DVD 映像を表現手段とする中国・広東省における桑基魚塘(人工生態系における淡水魚養殖)の研究 共同研究者：廣瀬充男氏・梶夏子氏・陳衛東氏	重森 貝崙	590,000 円
雲南・日本の比較文化的研究(担当者：欠端實) 共同研究者：冬月律氏、李静氏	欠端 實	425,000 円

a-2. 個別研究

今期は以下4件の個別研究の実施を決定し、研究費を支給した。

テーマ	担当	研究費支給額
中国経済の市場化への政策的対応	堀中 浩	50,000 円
内モンゴにおける近代学堂の創設と留学事業	横田 素子	300,000 円
雲南省における神話研究	百田 弥栄子	300,000 円
中国の国際関係	麻生 輝彦	200,000 円

B. 研究会、講演会等の開催

公開講座・上映会の開催

内 容：

映像「乾(かん)貨(か)の食文化

—知味竹爐山房(ちくろさんぼう) 山本豊の食単」 44分

映像「桑基魚塘(そうきぎょとう) クワとサカナのものがたり

—中国伝統の自然循環農法・その保存の試み」 28分

講演「中国における乾物の利用と魚食の食文化について」(講演者：重森貝崙)

日 時：2015年2月13日(金) 18:00～20:00

会 場：三鷹ネットワーク大学 A・B教室

参加者：40名

C. 所報、その他出版物の刊行

c-1. 所報『中日文化研究第2号』を刊行した。

掲載原稿のタイトルは以下の通り。

(エッセイ・紀行文)
南のサカナ 北のニク ——南魚北肉 私論 重森貝崙
(講演録)

太田南畝が江戸、長崎で垣間見た鄭成功の書、詩、書簡などについて 齊藤孝治
(インタビュー)

「わたしと中国」その①
——黒竜江省・チチハルと甘粛省・天水への移住—— 訊く人 重森貝崙
話す人 横山 寛

(エッセイ)
「任少卿に奉ずるの書」を認めた司馬遷の動機について 木村実季
中国初期稲作文化と雲南 白石哲也
編集後記

c-2. 紀要『中日文化研究所論文集第2号』を刊行した。

掲載原稿のタイトルは以下の通り。

(論文)

知られざる郭沫若の諸事について (1) 齊藤孝治

「桑基魚塘 クワとサカナのものがたり」 重森貝崙

内蒙古近代学堂創設の祖「貢桑諾爾布」の再来日案件と蹉跎 横田素子

女性原理に基づく再生・循環・いのちの文化 (上) 李 静

雲南の新嘗から日本の大嘗祭をみる 欠端 實

(研究ノート)

中国の姥捨て伝承 百田弥栄子

「社会主義市場経済」考(7) 堀中 浩

上海に見る中国の近代化 木村実季

編集後記

c-3. 中国文化叢書第1号『愉しい中国茶の世界』(王亜雷、那須芳隆、重森貝崙、欠端實 編)を刊行した。

D. その他

特になし

II その他の事業

① 茨城県美浦村に所有する不動産の賃貸

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団に賃貸した。

以上